

研究課題 (テーマ)		前腕浴が前頭葉機能に及ぼす影響	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	講師	山崎 智可
分担者	富山大学 学術研究部医学系	教授	堀 悦郎
研究結果の概要			
<p>看護の現場では、患者の手足を温める部分浴が行われています。これらの部分浴には、手足を清潔にするだけでなく、血行を良くする効果やリラックス効果が報告されています。近年では、脳血流に与える影響についても研究されています。</p> <p>本研究では部分浴のなかでも、看護ケアとしてはあまり実施されていない前腕浴に着目しました。前腕浴はリハビリテーション領域で上肢の機能改善を目的に行われています。</p> <p>本研究の研究対象者は健康診断で異常のない方としました。対象となった方には、前腕浴を行う日（前腕浴）と前腕浴を行わない日（非前腕浴）の2日間、研究に参加していただきました。前腕浴では両肘まで湯に40分間浸けてもらい、非前腕浴ではお湯はないのですが、前腕浴と同じ姿勢や動作をしてもらいました。脳血流は前額部に16個のセンサーを装着し測定しました。</p> <p>実験の結果、前額部のなかでも脳血流が上昇する部位と上昇しない部位があることがわかりました。また経過時間によっては、一旦上昇した脳血流が低下する部位があることがわかりました。この結果は、部分浴によって脳が活性する部位とそうでない部位があること、脳を活性化させる目的で部分浴を実施するには、適正時間があることを示唆しています。</p> <p>なお、詳細な分析結果は、後日国内外での学会に発表予定です。また、学会発表の成果を加えて、国内外の学術雑誌に論文として投稿予定です。</p> <p>最後に、本研究にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。</p>			
今後の展開			
<p>今回の研究によって、部分浴の適用中でも時間によって脳血流が上昇する時間、低下し始める時間がある事がわかりました。今後は、脳血流が前頭葉機能に及ぼす影響を行動レベルで検討することを予定しているため、今回得られた結果を基に前腕浴の介入時間を検討し、実験プロトコルを構築する予定です。</p>			